



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月9日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東
コード番号 7458 URL <https://www.dkkaraoke.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 2023年12月5日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績 (2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	71,256	17.4	9,377	71.5	9,758	69.0	6,576	9.8
2023年3月期第2四半期	60,671	53.5	5,469	—	5,773	—	5,990	—

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 7,029百万円(13.2%) 2023年3月期第2四半期 6,208百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	60.91	60.79
2023年3月期第2四半期	54.86	54.78

(注) 2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	174,219	105,860	59.9
2023年3月期	188,623	107,915	56.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 104,352百万円 2023年3月期 106,451百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	56.00	—	57.00	113.00
2024年3月期	—	28.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	29.00	57.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2024年3月期の連結業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	144,500	12.8	18,000	38.9	19,100	40.4	12,700	52.6	118.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年3月期2Q	109,468,400株	2023年3月期	109,468,400株
------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2024年3月期2Q	2,613,807株	2023年3月期	282,604株
------------	------------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年3月期2Q	107,970,535株	2023年3月期2Q	109,185,863株
------------	--------------	------------	--------------

(注) 2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の状況	2
(2) 財政状態の状況	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(四半期連結損益計算書関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年9月30日、以下「当第2四半期」という)におけるわが国の経済は、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが引き下げられ、個人消費や設備投資の回復基調を受けて景気は緩やかに持ち直しの動きがみられましたが、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しする懸念があるほか、円安の長期化や物価の高騰などにより、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当カラオケ業界におきましては、主力市場であるナイト市場・カラオケボックス市場を中心に、全体として回復傾向で推移いたしました。

このようななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第2四半期の業績は、売上高は第2四半期として過去最高となる71,256百万円(前年同期比17.4%増)となり、営業利益は9,377百万円(同71.5%増)、経常利益は9,758百万円(同69.0%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前年同期にあった助成金収入2,868百万円が当第2四半期では剥落したことにより、6,576百万円(同9.8%増)となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	60,671	71,256	10,584	17.4%
営業利益	5,469	9,377	3,908	71.5%
経常利益	5,773	9,758	3,985	69.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,990	6,576	585	9.8%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、事業環境の改善を背景に、機器賃貸件数の拡大とコロナ禍の影響により減速していた旧機種から新機種への入替えを推進することにより、安定的収益基盤の強化に努めるとともに、ライブ映像・アニメ映像・ミュージックビデオなどの映像コンテンツをさらに充実させることにより、カラオケDAMの商品力強化を図りました。

このようななか、4月にはフラッグシップモデルの後継機種である「LIVE DAM AiR(ライブダムアイアール)」を発売いたしました。マイクを通して声による楽曲予約やリモコン操作を可能にした「Aiアシスタント」機能を拡充し、英語・中国語・韓国語の発話にも対応したほか、実在のライブ会場の音響特性を再現する「ライブサウンド」機能に、数千人の大合唱やコール&レスポンスを演出する「エキサイトライブホール」を追加するなど、うたう楽しさをさらに追求した機能が好評をいただき、発売以降、計画を上回る出荷状況となりました。

また、エルダー市場においては、コロナ禍においてかなわなかった介護施設等への訪問営業が一部で可能となるなど事業環境が改善するなか、オンラインイベントを定期的に開催するなどウェブの活用にも注力し、稼働台数の増加に努めました。

以上の結果、新商品の好調な出荷とともに、機器賃貸件数及びDAM稼働台数が堅調に増加したことにより、売上高は前年同期比6.2%の増収となり、営業利益は機器賃貸に係る原価や販管費の増加などの影響により、前年同期比7.0%の減益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	28,716	30,483	1,766	6.2%
営業利益	7,472	6,947	△525	△7.0%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、カラオケ3店舗、飲食5店舗の出店を行い、カラオケ2店舗と、飲食複合業態の統合及び業態変更を行ったことによる9店舗が閉店となりましたことにより、当第2四半期末の店舗数はカラオケ509店舗、飲食167店舗となりました。

5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが引き下げられたことなどにより、店舗の集客は期初から回復傾向で推移し、当第2四半期の既存店売上高はコロナ禍以前に比べカラオケ店舗で約10%減、飲食店舗で約10%増の水準まで回復し、前年同期比ではカラオケ店舗で約30%増、飲食店舗で約40%増となりました。

このようななか、9月に35周年を迎えたビッグエコー店舗においては、「優里」や「ももいろクローバーZ」といったアーティストとのコラボレーションのほか、取引先企業の主力ブランドでカラオケルーム内を装飾した「グッドカンパニールーム」や「ビッグエコーカラオケグランプリ」など、35周年を盛り上げる様々な施策を通じて、カラオケから足が遠のいていたお客様の呼び戻しを図るとともに、最上位機種である「LIVE DAM AiR (ライブダムアイアール)」の早期導入やビッグエコーアプリヘデンモクアプリ起動機能を搭載するなど、顧客満足度向上に努めました。

また、飲食店舗においてはコールセンター機能の拡充を行い宴会予約の獲得を強化したほか、ダーツ業態3店舗を出店するなど、幅広く集客の獲得を推進しました。

以上の結果、売上高は前年同期比35.2%の増収となり、2,680百万円の営業利益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	22,702	30,685	7,983	35.2%
営 業 利 益	△1,671	2,680	4,352	—

(音楽ソフト)

当事業におきましては、イベント・コンサート等が再開され、音楽業界にも活気が戻りつつあるなかで、CD・DVD等の商品販売及びテレビ番組制作事業がほぼ計画水準で推移いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比1.6%の減収となり、営業利益は前年同期比58.0%の増益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	3,221	3,169	△51	△1.6%
営 業 利 益	98	156	57	58.0%

(その他)

当事業におきましては、新たな収益の柱とするべく「ザ・パーク」ブランドで展開するパーキング事業が堅調に推移し、当第2四半期末時点で2,300施設、28,000車室を超える規模に拡大いたしました。また、土地オーナー様に向けたテレビCMなどを通じて「ザ・パーク」ブランドの認知拡大に努めました。

以上の結果、売上高はパーキング事業収入の増加などの影響により前年同期比14.7%の増収となり、営業利益は前年同期比0.9%の増益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	6,030	6,917	886	14.7%
営 業 利 益	788	795	7	0.9%

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ14,403百万円減少し、174,219百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では現金及び預金が19,613百万円減少し、その他に含まれる前払費用が1,324百万円増加しております。

固定資産ではカラオケ賃貸機器が1,785百万円、カラオケルーム及び飲食店舗設備が1,175百万円それぞれ増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ12,349百万円減少し、68,358百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債では支払手形及び買掛金が1,374百万円、その他に含まれる未払金が895百万円それぞれ減少しております。

固定負債では長期借入金が9,966百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ2,054百万円減少し、105,860百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加6,576百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少3,111百万円及び自己株式の取得による減少6,000百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ19,613百万円減少し、51,810百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が9,631百万円、減価償却実施額が5,830百万円、仕入債務の減少額が1,386百万円、未払金の減少額が644百万円及び法人税等の支払額が2,897百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ1,920百万円減少し、9,446百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が7,075百万円、無形固定資産の取得による支出が1,560百万円及び映像使用許諾権の取得による支出が1,003百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ3,774百万円増加し、9,676百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出が10,421百万円、配当金の支払額が3,112百万円、自己株式の取得による支出が6,000百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ15,950百万円増加し、19,450百万円となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月9日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	71,812	52,198
受取手形及び売掛金	5,367	5,483
棚卸資産	11,735	10,917
その他	4,888	6,954
貸倒引当金	△374	△353
流動資産合計	93,429	75,200
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	6,306	8,092
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	9,192	10,367
土地	40,218	40,218
その他（純額）	6,574	7,127
有形固定資産合計	62,292	65,806
無形固定資産		
のれん	606	569
その他	6,056	5,720
無形固定資産合計	6,663	6,289
投資その他の資産		
投資有価証券	4,914	5,502
敷金及び保証金	14,477	14,458
その他	6,986	7,100
貸倒引当金	△140	△138
投資その他の資産合計	26,237	26,923
固定資産合計	95,193	99,019
資産合計	188,623	174,219

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,954	3,580
短期借入金	13,511	13,146
未払法人税等	3,106	3,332
賞与引当金	1,151	1,654
その他	12,564	11,350
流動負債合計	35,288	33,064
固定負債		
長期借入金	31,135	21,168
役員退職慰労引当金	1,113	646
退職給付に係る負債	7,991	8,217
資産除去債務	2,018	2,010
その他	3,160	3,251
固定負債合計	45,419	35,294
負債合計	80,707	68,358
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,211	4,211
利益剰余金	89,885	93,350
自己株式	△571	△6,571
株主資本合計	105,876	103,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,047	1,409
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	99	178
退職給付に係る調整累計額	160	157
その他の包括利益累計額合計	574	1,011
新株予約権	292	326
非支配株主持分	1,172	1,181
純資産合計	107,915	105,860
負債純資産合計	188,623	174,219

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	60,671	71,256
売上原価	39,771	45,381
売上総利益	20,899	25,874
販売費及び一般管理費	15,430	16,497
営業利益	5,469	9,377
営業外収益		
受取利息	9	12
受取保険金	94	48
受取協賛金	93	98
為替差益	-	11
その他	350	371
営業外収益合計	548	541
営業外費用		
支払利息	87	70
為替差損	40	-
解約違約金	35	4
その他	80	84
営業外費用合計	243	159
経常利益	5,773	9,758
特別利益		
固定資産売却益	3	2
負ののれん発生益	112	-
助成金収入	2,868	-
特別利益合計	2,983	2
特別損失		
固定資産処分損	26	93
減損損失	18	35
特別損失合計	44	129
税金等調整前四半期純利益	8,712	9,631
法人税、住民税及び事業税	1,807	3,179
法人税等調整額	895	△139
法人税等合計	2,703	3,039
四半期純利益	6,009	6,592
非支配株主に帰属する四半期純利益	19	16
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,990	6,576

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	6,009	6,592
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	136	361
為替換算調整勘定	45	78
退職給付に係る調整額	17	△3
その他の包括利益合計	198	437
四半期包括利益	6,208	7,029
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,189	7,013
非支配株主に係る四半期包括利益	19	16

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,712	9,631
減価償却費	5,079	5,830
のれん償却額	54	37
減損損失	18	35
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	33	△466
受取利息及び受取配当金	△78	△82
支払利息	87	70
為替差損益(△は益)	△33	△66
固定資産処分損益(△は益)	23	91
助成金収入	△2,868	-
負ののれん発生益	△112	-
売上債権の増減額(△は増加)	△566	△77
棚卸資産の増減額(△は増加)	△491	823
カラオケ賃貸機器の売上原価振替	27	38
前渡金の増減額(△は増加)	△242	△251
仕入債務の増減額(△は減少)	326	△1,386
未払金の増減額(△は減少)	548	△644
その他	△352	△1,248
小計	10,168	12,335
利息及び配当金の受取額	78	81
利息の支払額	△88	△72
助成金の受取額	3,036	-
法人税等の支払額	△1,827	△2,897
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,367	9,446
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10	△10
定期預金の払戻による収入	10	10
有形固定資産の取得による支出	△3,527	△7,075
有形固定資産の売却による収入	7	3
無形固定資産の取得による支出	△1,615	△1,560
映像使用許諾権の取得による支出	△536	△1,003
投資有価証券の取得による支出	-	△73
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	143	-
事業譲受による支出	△16	-
貸付けによる支出	△106	△30
貸付金の回収による収入	106	117
敷金及び保証金の差入による支出	△472	△131
敷金及び保証金の回収による収入	206	101
その他	△89	△23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,901	△9,676

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	25	△309
長期借入れによる収入	130	400
長期借入金の返済による支出	△537	△10,421
配当金の支払額	△3,111	△3,112
自己株式の取得による支出	△0	△6,000
その他	△7	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,500	△19,450
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	66
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,998	△19,613
現金及び現金同等物の期首残高	68,125	71,423
現金及び現金同等物の四半期末残高	70,124	51,810

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2023年2月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,331,100株の取得を行っております。この取得等により、当第2四半期連結累計期間において自己株式が6,000百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が6,571百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	28,716	22,702	3,221	54,640	6,030	60,671	—	60,671
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	7,472	△1,671	98	5,899	788	6,688	△1,219	5,469

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,219百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	30,483	30,685	3,169	64,338	6,917	71,256	—	71,256
セグメント利益 (営業利益)	6,947	2,680	156	9,784	795	10,580	△1,202	9,377

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,202百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(四半期連結損益計算書関係)

助成金収入

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴い、従業員の出勤停止期間中の給料等を対象として助成を受ける雇用調整助成金のほか、国及び地方自治体等から給付を受ける助成金等を「助成金収入」に計上しております。